

『西教寺 について』…蔵前-関西午餐会、実施日:平成 27 年 10 月 6 日(火) 13 時半～15 時半

正式の名前は、天台真盛宗 総本山 戒光山 兼法勝 西教寺

(滋賀県大津市坂本 在) [URL:http://www.saikyoji.org/](http://www.saikyoji.org/)

※天台 3 宗/総本山 ⇒1. 天台(法華)宗/比叡山延暦寺 2. 天台寺門宗/長等山園城寺 3. 戒光山西教寺

開祖: (伝) 聖徳太子が、その恩師=高句麗の僧慧慈、慧聡のために創建

歴史: 平安・鎌倉期に再興し、恵鎮(円観)上人・真盛上人(桃山期)の手で天台宗の不断念仏道場として興隆。

信長-叡山焼討ちの災禍から坂本城主明智光秀の援助で復興し、その後紀州徳川家 秀吉の庇護などで立派な堂塔・庭園 (各種の文化財も) を有する大寺院 (末寺 約 500) として今日に至っている。

明智光秀と西教寺

・叡山焼き討ちで焼失した堂塔(特に大本坊)を、時の地元坂本城主-明智光秀が檀徒として再建復興した。

・当時の「天正年中期明智公所造古木」が今も残る。また総門・陣鐘等も光秀の寄進、寺宝として残る。

・境内に内室熙子や一族の墓に加えて、**光秀一族の供養塔**が残っている

(寺は、光秀を大恩人として供養しているが、その墓はない)

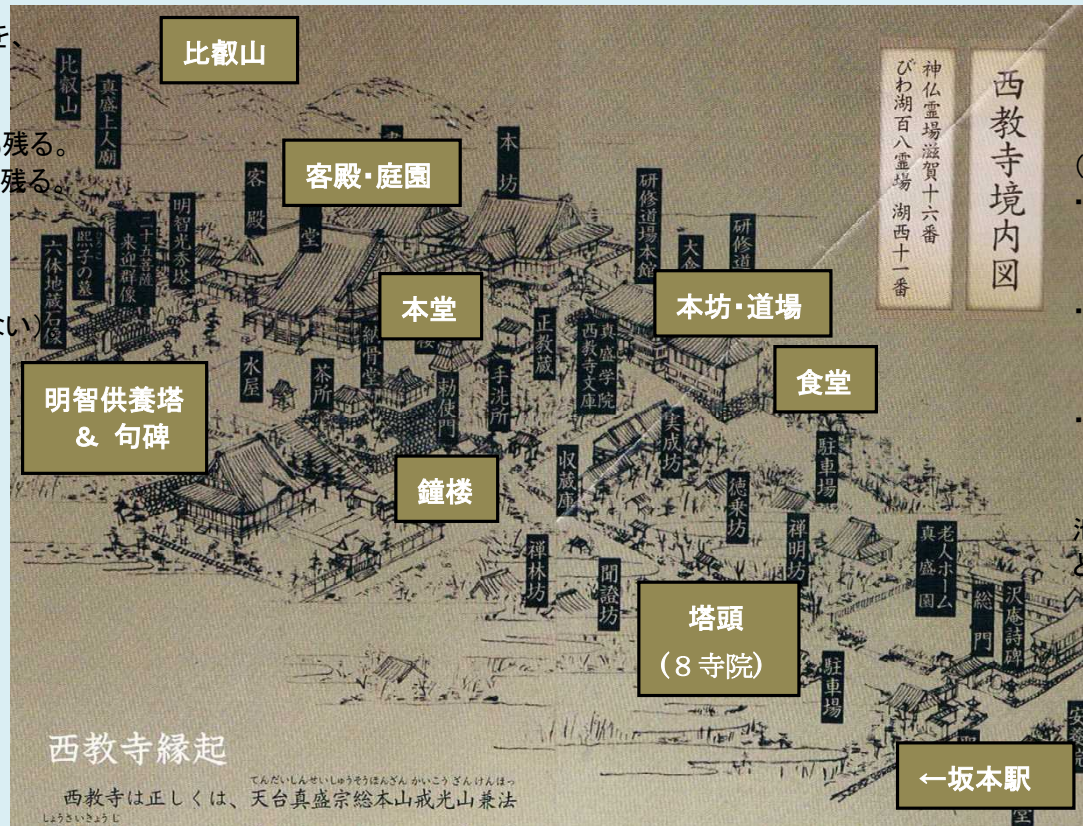


芭蕉の句碑…光秀の所縁で月さびよ明智が妻の話せむの句碑が境内にある

この句の由縁

芭蕉が奥の細道の旅を終えて伊勢を訪ねたとき、蕉門(俳句の弟子)の又幻くゆうげん>と妻の心遣い(傷心を表にださず)に感激した芭蕉が、夫妻にこの句を送ったことが、『俳諧勸進牒』に収められている。

困窮していた光秀が、妻 熙子の心ばえ(切った髪を売り、夫に差し出した)に感激、奮励(信長に仕官・栄進)した故事(『真蹟懐紙』)に倣って、又玄夫妻を元気づけようと作句したもの。



西教寺縁起

西教寺は正しくは、天台真盛宗総本山戒光山兼法勝

= 西教寺 観覧者用パンフレットから Copy =

本堂・鐘楼(重文・梵鐘は平安期のもの)

(重要文化財・

江戸時代-1739 に上棟)

・江戸時代(1739)に紀州徳川家から寄進の材木で落成。

豪壮で桁行七間・梁間六間・総檜入母屋造である。

・正面の欄間(十六羅漢)や須弥壇(籠彫)は、すべて檜-素木造りで、豪華な装飾あり。

・本尊の阿弥陀如来(平安時代・定朝様式・重文)は、京都旧法勝寺から移された(伝)。

そして、鐘楼の梵鐘は坂本城のもと陣鐘()で、明智光秀から寄進うけた。

客殿・庭園

(重文・桃山時代) (伝 小堀遠州 作)

・京都 伏見城から慶長3年(1598)に、秀吉家臣が移築・寄進した桁行十二間・梁間八間、柿(コケウ)葺き

・重屋根造り、桃山御殿と称される。

秀吉御座-上座の間など狩野派装飾絵が多数描かれている。

・庭園は小堀遠州(紀州徳川家が支援)が、叡山畔部を巧みに生かして作庭。琵琶の姿を模した瓢型池泉や、穴太衆ゆかりの庭など、四季とりとり それぞれに素晴らしい眺めである。

『猿』の棟瓦

回廊など境内堂塔の屋根の多くに、この瓦を載せている。

叡山に隣接、境内の護りを象徴したもの。

